



いやさか通信

「いやさか地域づくり」研修会 ～地域防災意識の向上に向けて～

2/19 (火)

弥栄町区長連絡協議会では、小規模多機能自治活動として住民参加型の研修会を開催しました。

今回の研修会では、地域防災意識の向上について考えることを通じて地域づくりを進めるため、各区の区長役員さんのほか、地域で中心的な役割を担う若者、消防団関係者、福祉の分野で活動をしている女性など71名が参加し、京丹後市社会福祉協議会弥栄支所の協力のもとに行われました。

講師に丹後町久僧区長・坂井和正さんをお招きし、2年続けて台風による浸水被害を受けた体験談を伺ったほか、まちづくり支援をしていただいている原田先生からは先進的な取り組み事例を紹介していただきました。

その後、自分たちが暮らす地域の現状や課題をあげ、課題の解決のために何ができるか等を、ワークショップ形式で話し合いました。活発な意見交換が行われ、「地域の防災力をあげるには、日頃からの住民同士のつながり強化や住民の意識向上が欠かせない」「地域の特性にあった避難計画が必要」「住民が主体となって実践的な訓練をしないと、いざという時に適切な行動をとれない」など、様々な意見が出ました。

今回の研修会で学んだことが、今後の地域の防災活動に活かされることが期待されます。また、こうした地域づくりの取組みは、様々なテーマで引き続き開催する予定です。



吉野小学校5年生

赤米を使ったばら寿司づくり

2/22 (水)

京丹後市立吉野小学校の5年生(16名)は、この1年を通して『広がれ 丹後のうみやあもん』と題して、京丹後市の「食の魅力」について学びました。

この学習では、生産者の話を聞いたり、現場の見学のほか、校区内の芋野地区で「芋野郷赤米保存会」が中心となって栽培している古代米「赤米」の田植えや稲刈りを体験しました。

この日は、それらの集大成として、自分たちで育てた赤米と、主に地元で採れた食材を使って「丹後ばら寿司」づくりを体験しました。

作り方を指導してくださったのは、弥栄町で伝統文化や暮らしを次世代に継承する活動をしている「ウインズやさか野」の8名の皆さんです。



調理体験の様子



完成したばら寿司

児童たちは班に分かれて、サバ缶のおぼろや錦糸卵などを作り、最後に酢飯と合わせて仕上げました。「この時期だから」と用意されたプロックリが鮮やかで、まつぶたにはひと足はやく春の花が咲いたようでした。

できあがったばら寿司は、屋食としてウインズやさか野の皆さんや赤米栽培を教えてもらった保存会会長の藤村さんと一緒に食べました。

自分たちで作ったばら寿司は格別だったようで、「難しかったけど、作るのも楽しかったし、サバ缶のおぼろの甘さと酢飯の組み合わせが美味しかった」といった声が聞かれました。

丹後の「食の魅力」を支えている生産者の皆さんとの交流や郷土料理であるばら寿司づくりを通して、改めて「丹後地域の魅力」を感じた学びの時間となりました。

『いやさか通信』は弥栄地域の旬の情報をお伝えするため、随時発行します。

《弥栄町の人口》

	H31.1	H16.4
男	2,306 (80.0%)	2,883
女	2,596 (82.0%)	3,165
計	4,902 (81.1%)	6,048
世帯数	1,964 (106.0%)	1,853

☆住民基本台帳による数値です。

☆ () 内の数字は H16年4月の京丹後市への合併時の数値を100として、増減を示すものです。